

城原川だより 74号 城原川を考える会

【ダムに抛らない治水をめざすには】

2018 5. 18日(金)

次回発行予定 2018年 6月 22日(金)



4月21日22日、「第33回水郷水都全国会議 in 朝倉・久留米」に参加しました。水郷水都会議というのは、水辺を大切に思っている人たちが手弁当で全国各地のその年の開催地に集まり、その地の問題を考え、それぞれの活動の応援をする、とでもいうような会です。今回は昨年7月5日に北部九州を襲った九州北部豪雨について現場の視察と報告を聞くということで、21日に壊滅的被害を受けた朝倉市の視察、翌22日には久留米大学御井キャンパスで島谷幸宏九州大学教授の基調講演を始め6名の方の貴重な発表を聴きました。

21日の被災地現地視察は、災害から9カ月も経っているのに衝撃的でした。



新聞やテレビ報道などでかなり知っているつもりでしたが、実際現場に行ってみると、想像を越えた世界が広がっていました。この地は古い歴史を刻みながら人々は山間の美しい大自然の中で穏やかに暮らしていたところです。

ところがあの日、降りだした雨は時間当たり130ミリを越える勢いで、場所によっては24時間雨量が1000mmを越える大豪雨となっていました。普段の川幅は1~2mという小川がいきなり膨れ上がり、土石流木に阻まれながら川筋を変え、家々を巻き込み広大な川に変化して行った様子が見てとれました。

多くの尊い人命が失われました。案内して下さった現地の方が、「翌日高台からみたこの山間の光景はまるで海の広々とした砂浜のようだった」とお話をされました。

先述したように、この地は古い歴史を持っている場所です。661年には朝倉橘広庭の宮に(注1)斉明天皇が滞在し、短い期間ではありましたが、日本の中心となったことさえあります。

そこが、5年前の7月に九州北部豪雨の災害に見舞われ大きな被害をこうむりました。しかし、今回はそれをも上回りました。「わずか5年後にまた大きな災害を受けるとは思いもしなかった」と多くの人々が語っていらっしゃいました。

近頃の雨の降り方はおかしい、と感じている人も多いと思います。環境省の〈21世紀における日本の気候〉を見てみると、

時間降雨量50ミリ「非常に激しい雨」はこの30年で約1、3倍増

時間降雨量80ミリ「猛烈な雨」はこの30年で1、7倍増

局地的豪雨（ゲリラ豪雨）はここ数年増加傾向

竜巻、突風の発生回数も、観測が強化された2007年以降増加傾向とあります。

朝倉市の惨状はとても人ごとではありません。脊振山地に朝倉豪雨の時と同じような**(注2)**線状降水帯がかかり、時間当たり100ミリも降るようなことがあったら、城原川流域はもとより、各地で同じような被害が起こるのは間違いありません。

今回特に注目されたのは流木により被害が拡大してことでした。このことについては次回に記したいと思います。

今年度の城原川ダムの予算ができました。

国土交通省のホームページより所管ダム事業一覧【直轄・水資源機構】で確認しました。事業主体は九州地方整備局です。29年度の予算は359(百万)でした。30年度は530(百万)と、171(百万)増えています。そして、備考欄には30年度から建設段階へ移行と記してありました。

公共事業の評価について水源連の問題提起を記載します。

公共事業の評価は「行政機関が行う政策の評価に関する法律」に基づき、各事業体が定期的に評価を行い、その結果を総務省に報告し、総務省行政評価局がチェックを行うことになっています。その記事はそのチェックの結果から問題事例を取り出したものです。

しかし、公共事業の評価の問題はこの記事の程度にとどまるものではありません。

ダムに関しては、治水目的はダム事業者（国や道府県）、利水目的は水道事業者等が行います。

評価の重要項目は**(注3)**費用便益比が1を超えていることですが、便益を膨らまして1を超えるようにすることがまかり通っています。

治水に関しては洪水が来れば、堤防が各所で切れて、氾濫被害額が莫大な金額になるという非現実的な計算が、国土交通省の「治水経済調査マニュアル」に基づいて行われています。

利水に関しても濁水が来れば、家庭等がボトルドウォーター、ポリ容器、ポリバケツ、たらいなどを購入するので、巨額の被害が発生するという非現実的な計算が、厚生労働省の「水道事業の費用対効果分析マニュアル」に基づいて行われています。

そのようなインチキ計算で、ダムがない場合の被害額（便益）を大きく膨らませてダムが必要だという評価がまかり通っています。

公共事業の評価制度はほとんど形だけのもので、必要性のない公共事業を抑制することにはほとんど機能していません。

公共事業の評価制度を根本から変えなければなりません。（水源連メール）

水源連とは

「**水源開発問題全国連絡会**」の略称で、全国各地でダム問題に取り組む同士を結ぶネットワークです。「**城原川だより**」も水源連のホームページで読むことができます。

(注1) 斉明天皇

皇極天皇（こうぎょくてんのう）、重祚して斉明天皇（さいめいてんのう）は、日本の第35代・第37代天皇。

舒明天皇の皇后で、天智天皇・間人皇女（孝徳天皇の皇后）・天武天皇の母である。推古天皇から一代おいて即位した女帝（女性天皇）になる。

在位5年（660年）に百済が唐と新羅によって滅ぼされた。百済の滅亡と遺民の抗戦を知ると、人質として日本に滞在していた百済王子豊璋を百済に送った。百済を援けるため、難波に遷って武器と船舶を作らせ、更に瀬戸内海を西に渡り、筑紫の朝倉宮に遷幸し戦争に備えた。遠征の軍が発する前の661年、当地にて崩御した。斉明天皇崩御にあたっては皇子は即位せずに称制し、朴市秦造田来津（造船の責任者）を司令官に任命して全面的に支援、日本軍は朝鮮半島南部に上陸し、白村江の戦いを戦ったが、唐と新羅の連合軍に敗北した。

直木孝次郎は皇極天皇のこれらの動向について、記紀における神功皇后の三韓征伐説話のモデルになったのではないかと推測している^[5]。

(注2) 線状降水帯（せんじょうこうすいたい）

「次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域」（気象庁が天気予報等で用いる予報用語）である^[1]。

日本では、集中豪雨発生時に線状の降水域がしばしばみられることが1990年代から指摘されていた^[2]。気象研究所の津口・加藤（2014）は、1995年-2009年の4月-11月の期間を対象として、日本で起きた集中豪雨事例を客観的に抽出し降水域の形状についての統計解析を行ったところ、台風によるものを除いて、約3分の2の事例で線状降水帯が発

生していることが明らかにされた^{[2][3][4]}。近年では、平成 24 年 7 月九州北部豪雨^[2]、平成 25 年 8 月秋田・岩手豪雨^[2]、平成 26 年 8 月豪雨による広島市の土砂災害^[5]、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨^[5]、平成 29 年 7 月九州北部豪雨^[5]で発生した。この用語が頻繁に用いられるようになったのは、平成 26 年 8 月豪雨による広島市の土砂災害以降とみられる^[2]。ゲリラ豪雨などの原因になっていると見られる。気象庁気象研究所によるレーダー観測の分析によると、1995 年～2006 年に発生した台風以外の豪雨 261 件のうち、約 6 割（168 件）は線状降水帯に起因していた。日本全国で発生し、九州と四国に多い。発生メカニズムは解明しきれていないものの、発生しやすい 4 条件として「雲の元となる暖かく湿った空気の流入」「その空気が山や冷たい前線とぶつかるなどして上昇」「積乱雲を生みやすい不安定な大気状況」「積乱雲を流しては生む一定方向の風」が挙げられている^[6]。

(注3)費用便益比

「B/C：利益/費用」とも略され公共事業の効果を金銭に置き換えて、その妥当性を評価するための指標をいいます。これは、ある事業において、要した費用の総計に対する発生した便益の総計の比率（一定期間の総便益額を総費用で割った値）であり、その値が 1 以上であれば、総便益が総費用より大きいことから、その事業は妥当なものと評価されます。

第 113 回定例会 6 月 15 日（金）14：00～16：00 神崎市中央公民館

第 114 回定例会 7 月 20 日（金）14：00～16：00 神崎市中央公民館

参加費用（資料代） 200 円

月曜勉強会（祝祭日を除く毎月曜日） 10：00～12：00

千代田町福祉センター

皆様のご参加お待ちしております

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神崎市千代田町境原 282-12

電話 0952-44-2925

副代表 平田憲一 〒842-0122 神崎市神埼町城原 1877-1

電話 0952-52-2827

Mail：teaho74@yahoo.co.jp

ブログ ふるさとの川城原川 [livedoor.jp/ jyubarugawa](http://livedoor.jp/jyubarugawa)

<https://ameblo.jp/jyoubarugawa/>

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしお寄せください。

文責 佐藤悦子